

## 指が触れた場所が仙台・ボートライト宣教師夫妻来日 1958

### はじめに

ジョージア州タットナル郡で毎週木曜日に発行されている、「タットナル・ジャーナル」<sup>1</sup>という週刊新聞があります。1958年3月20日（木）発行のその新聞に、ヴァージニア州リッチモンドで開かれた南部バプテスト連盟外国伝道局の3月月例会議で、ボートライト牧師（33才）<sup>2</sup>と妻ベティ（31才）<sup>3</sup>が、日本への宣教師に任命されたという記事<sup>4</sup>が写真入りで掲載されました。その内容を以下に紹介します。

### 1. 「ボートライト牧師夫妻、日本への宣教師に任命」（タットナル・ジャーナル 1958/3/20）

コリンズ・バプテスト教会の C.S.（ボブ）ボートライト牧師夫妻は、ヴァージニア州リッチモンドで開かれた南部バプテスト連盟外国伝道局の月例会議において、日本への宣教師として本日任命されました。ボートライト師は1953年9月にコリンズ教会に赴任、その前はケンタッキー州シンティアナ近くの教会の牧師でした。

自分の霊的な成長に関して次のように師は語っています。「小さかった頃の日曜学校の女性教師から影響を大きく受けました。教会学校で先生が教えてくれたことや、教会学校外でその先生が関心を向けていることを通して、私は霊的に物事を考える習慣が身に着いたのです」

師は少年の頃にキリストを救い主と信じる信仰を告白し、家の近くのサマータウン・バプテスト教会に所属しました。「人生の早い頃から、神様は私が説教者になることを望んでおられる、と感じるようになりました」と師は語ります。しかしながら、師が牧師になることをはっきりと決心したのは1948年のことでした。

またボートライト師は、「宣教師として働いている友人が、1957年に書いた記事を読み触発されました」と外国伝道局に対して語ります。「この記事によって、神様は宣教の働きへ私を招いておられるということを、はっきりと認識させられました」  
「以前は、宣教の働きに出かけていく人たちは気の毒だと感じていましたが、今は、その働きに出かけていけない人たちは気の毒だと感じています」と付け加えます。

エマヌエル郡で生まれたボートライト師は、ティフトンのアブラハム・バードウィン農芸大学に通い、またダロゲナの北ジョージア大学で科学の学士号を取得。神

学の修士号は、ケンタッキー州ルイスヴィルにある南部バプテスト神学校から授与されました。

師はアトランタの自動車会社の経費分析専門家助手や、スワインズボロでの農業調整庁の農地調査員の働きを経験し、また米国空軍で 3 年以上任務に就いています。

ベティ・フェイス・ボートライト夫人は、マーコンの生まれで旧姓はウィリアムズ、現在ホワイト・プレインズで牧師をしている S.S.ウィリアム牧師夫妻の娘です。自分の人生はクリスチャンの両親から決定的に影響を受けました、と彼女は語っています。11 才でキリストを救い主と信じる信仰告白をして、近くのコーマのバプテスト教会の会員になりました。

彼女は外国伝道局に対して次のように語っています。「大学で親友だった者たちの多くは、ミッション・ボランティアになりました。また、大学の聖書の教授の励ましや影響力は、私にとって大いに意味のあるものでした。若い時期には、私はキリスト教事業に全ての時間と生活を献げ、自分の人生の中で神の御心が実現することを求めました」

ボートライト夫人はフォーシスのティフト大学で人文科学の学士号を取得し、ルイスヴィルの女性宣教師連合訓練学校（現在の「宣教・社会事業カーサー学校」）で宗教教育の修士を取得。職歴はブフォード・バプテスト教会の教育主事、ローレンスヴィル・バプテスト教会の音楽主事と活動推進主事、そしてニュートン郡カビングトン近くの中学校で教師も務めました。

ボートライト夫妻には、もうすぐ 5 歳になるメアリー・リンダ、そして 2 歳半のダビデ・ウェインの二人の子供<sup>5</sup>がいます。

夫妻は外国伝道局の 3 月定例会議で外国での働きのために任命された 8 名の青年の中に含まれており、南部バプテスト連盟の現役の外国宣教師の人数は、これで 1,188 名になります。

## 2. 日本地図を差した指が触れた場所が仙台

1958 年に来日したお二人は 2 年間東京で日本語の学習に励み、その後 1960 年 6 月に来仙します<sup>6</sup>。そして歴代の仙台教会の牧師たち（大沼上、天野五郎、金子純雄）と良き人間関係と協力関係を築きながら、仙台、吉岡、南光台、長命ヶ丘、郡山、山形において、福音を宣べ伝える働きに専心されました<sup>7</sup>。それぞれの地においてた

くさんの人たちと出会うわけですが、ボブ・ボートライト宣教師の持ち前の人懐こさや明るさは、知らない人に対して私たちが作ってしまいがちな心の壁を優しく壊してしまいましたし、夫人のベティー・ボートライト宣教師は、日本人以上に日本人的な慎ましやかな物腰や話し方で、周囲の人々に安心感と親近感を抱かせました。

お二人はどうして仙台を任地として選んだのでしょうか？ 初め宣教団からは韓国または香港を勧められたようです。それに対してボートライト宣教師夫妻は日本を希望しました。これから世界にもアジアの近隣の国々にも大きな影響を与える国になるはずの日本だからこそ、福音が浸透した国にならないと考えたのでしょう。そしてご自分の事務室に貼ってあった日本地図めがけて、「ココダ、ココニキタイ！」と差した指が触れた場所が仙台だったのです<sup>8</sup>。「たまたまだった」と冷静に解釈することもできますし、「御旨が示された」と確信を持って語ることもできるでしょう。いずれにしても、神がなさることは不思議ですし、時に適って美しいのです。(文責：小林孝男)

## Rev. and Mrs. Boatwright Appointed Missionaries Japan

Pastor and Mrs. C. S. (Bob) Boatwright, of Collins Baptist Church, were appointed missionaries to Japan today by the Southern Baptist Foreign Mission Board at its regular monthly meeting in Richmond, Va. Mr. Boatwright went to the Collins church in September, 1953. Prior to that he was pastor of a church near Cynthiana, Ky.

Concerning his spiritual growth, he said: "In my early years I had a Sunday school teacher whose interest in her class meant a great deal to me. Her Sunday school lessons and her interest outside of class caused me to do a great deal of thinking along spiritual lines."

While a young boy he made a public profession of faith in Christ as his Saviour and joined Summertown Baptist Church near his home. Early in his life he began to feel that God wanted him to be a preacher, he said. It was 1948, however, before he definitely decided to enter the ministry.

Mr. Boatwright told the Board of being influenced in 1957 by an article written by a missionary friend. This led to the realization that God was calling him to the mission field, he said. "Before this I used to feel sorry for those who went out on the mission fields; now I feel sorry for those who cannot go", he added.

A native of Emanuel County, Mr. Boatwright attended Abraham Baldwin Agricultural College, Tifton, and received the bachelor of science degree from North Georgia College, Dalton. He received the bachelor of divinity and master of theology degrees from Southern Baptist Theological Seminary, Louisville, Ky.

His working experience includes duties as assistant cost analyst with a motor company in At-



lantia, and as farm land checker for Agricultural Adjustment Agency in Swainsboro. He served more than three years in the U. S. Army Air Forces.

Mrs. Boatwright is the former Betty Faith Williams, native of Macon. The daughter of Rev. and Mrs. S. S. Williams, now of White Plains, she said the influence of Christian parents was a great determining factor in her life. At the age of 11 she publicly professed faith in Christ as Saviour and joined a Baptist church near Comer.

She told the Board: "Most of my closest friends in college were mission volunteers, and the encouragement and interest of my Bible professor meant a lot to me. During my junior year I dedicated my life to full-time Christian service and sought to fulfill God's

will in my life."

Mrs. Boatwright received the bachelor of arts degree from Tift College, Forsyth, and the master of religious education degree from Woman's Missionary Union Training School (now Career School of Missions and Social Work), Louisville. She was educational director at Buford Baptist Church, music and promotional director at Lawrenceville Baptist Church, and junior high school teacher in Newton County, near Covington.

Mr. and Mrs. Boatwright have two children, Mary Linda, almost five, and David Wayne, two and a half.

They were among eight young people appointed for overseas service by the Board at its March meeting, bringing the total number of active Southern Baptist foreign missionaries to 1,188.



タットナル・ジャーナル(1958年3月20日)

ボートライト宣教師夫妻

---

<sup>1</sup> The Tattnall Journal は 1879 年創刊。毎週木曜日に発行

<sup>2</sup> Claude Sawyer Boatwright、1924 年 8 月 10 日にジョージア州スワインズボロに生まれる。召天  
2016 年 11 月 15 日

<sup>3</sup> Betty Face Williams Boatwright、1926 年 4 月 22 日にジョージア州メイコンに生まれる。召天  
2015 年 8 月 14 日 1926 年

<sup>4</sup> 資料(1958/03/20\_ボートライト夫妻日本への宣教師に任命\_TattnallJournal)

<sup>5</sup> 記事が掲載された 1958 年 3 月時点で子供は二人。三人目のジュディは同年 5 月に誕生

<sup>6</sup> 資料(1989/08/00\_福音のために\_ボートライト夫妻の日本宣教 31 年・抜粋)24 頁

この小冊子は、ボートライト宣教師夫妻の日本での 31 年間の働きを記念し、退任にあたり仙台地区バ  
プテスト伝道協議会 (SBD) がお二人への感謝を込めて発行したものである。

<sup>7</sup> 同上 19~21 頁にボートライト宣教師の日本での働きが年譜としてまとめられている。

<sup>8</sup> 同上 25 頁



ボートライトご一家

左から長女メアリーリンダ、ベティー、長男ダビデ、ボブ、次女ジュディ



ベティー夫人 88 才の誕生日？